

歴史散策

美濃街道から多度道へ

【日 時】 平成24年10月13日(土) 1班 9:00~12:30
2班 9:15~12:45

【散策コース】 全行程 約 6km

養老線 多度駅前(○) (受付)

→ 円正寺(○) → 船着社 → 旧庄屋屋敷 → 尾津神社(戸津) (○)

→ 道標 → 柚井城跡 → ※大黒屋旅の資料館(○) → 宮川清めの池

→ ※多度祭資料館 → 多度大社(○) → 多度観音堂 → 法雲寺

→ 桑名市郷土館(○) → 養老線 多度駅前(○) (解散)

(○)印 トイレあり

※印 まちかど博物館

コレクションや伝統技、手仕事などを、仕事場の一角や個人のお宅等で館長さんの語りとともに見ることができる新しい形の博物館です。

【案内人】 加藤重樹 さん (桑名歴史案内人の会)
田中 浄 さん (")
加藤 満 さん (")
饒村 寿 さん (")
松本繁記 さん (")

主催： 三重県

後援： 桑名市 桑名市教育委員会

協力： 桑名歴史案内人の会 桑名まちかど博物館

【美濃街道の概要】

美濃街道は、一般に尾張の東海道宮宿と美濃の中山道垂井宿を結ぶ脇街道を指すが、桑名からも揖斐川の右岸に沿って美濃国に至る街道が開けていた。七里の渡しから東海道を 200 メートルほど南下し、川口町と江戸町との境で東海道と分かれて西へ向かうその道は、三崎通り、堤原を経て再び左右に分かれる。

左側は照源寺や桑名駅へ向かう八丁縄手と称する道、右側は美濃・多度方面へ向かう福島縄手と称する道である。現在、堤原との分岐点に建っている道標は、弘化 4 年（1847）の建立で、「右みの多度みち」に加え、「左すてん志よみち」と彫り込まれている。「すてん志よ」とは、ステーションつまり駅のこと、明治 28 年（1895）に関西鉄道（現 JR 関西本線）桑名駅が開業し、左に進む道が駅に行く幹線道路となったため、従来からあった道標に新しく彫り加えたのだろう。「右みの多度みち」の書体や彫りの深さと、若干の違いが見られる。

この美濃街道を多度道と称する人もいるが、正確には、美濃街道が途中で多度道に分かれたものである。桑名は揖斐・長良・木曾の三大河川の河口に位置するため、上流の美濃地方との水運による交易が盛んであった。

福島縄手を行く街道は、すぐに国道 1 号と重なり、住宅や商店、小工場などの市街地が続くが、大正時代までは一面に田が広がる道だったが、昭和 7 年に国道が出来てから町並みを形成するようになっていった。その国道も 1 キロメートル足らずで東へ分かれていき、街道は国道 258 号の西側を養老鉄道線沿いに進む。

桑名市の多度町戸津は、古い町並みがよく残っており、代々庄屋を務めていた西田家の長屋門と堀は風情が漂う。戸津から多度川を渡って西に 200 メートルほど進んだ三叉路には、多度大社に参詣する人のための道標があり、東側には「すぐ多度道」と刻まれ、西側には多度大社からの帰路を教える「右つしま左ミの道」が刻まれている。

◆ 円正寺

浄土真宗本願寺派、尾津山、阿弥陀如来。明応 8 年（1499）の正道（正導）が開基。元禄 13 年（1700）に寺院へ昇格。明治 14 年に火災で本堂が焼失したが、翌年に安田（海津町）の願船寺古堂を移築再建した。



◆ 船着社

祭神は表筒男神ほか 5 神。社伝によれば、多度大社別宮の一目連大神が度会郡山田郷より帰りに船で当社付近に着かれたので船着社と云うと伝えられている。また別伝には、この付近は尾津浜、尾津崎などの小字にあるように川岸であったため、付近の人々が氏神として海神を奉斎したとも伝えられる。船着社は多度大社例祭の御旅所でもあり、5 月の多度大社神輿渡御の際には 3 基の神輿が奉安される。



◆ 旧庄屋屋敷

多度大社の門前町でもある多度町の中でも、街道に沿う戸津地区は古い町並みがよく残されているところです。

特に旧戸津村庄屋を世襲していたという屋敷の長屋門と塀のある屋敷は目を引きま



◆ 尾津神社 (戸津)

式内尾津神社に比定される社の一つ。祭神は倭建命ほか8神。古事記や日本書紀に登場するヤマトタケルが天皇の命を受けて東国平定に向かう途中、剣を置き忘れた尾津浜がこの付近だとされる。古代には柚井あたりまで海が入り込んでおり、この付近は尾張へ渡る交通の拠点であったと思われる。古代の東海道榎撫駅もこの付近に推定されている。境内に天保10年(1839)に法泉寺の僧空観によって建立された「日本武尊歌碑」がある。



◆ 道標

多度町をたどった三叉路。美濃街道からは約200mほど離れている。

「すぐ多度道 右つしま 左ミの道」と刻まれている。

多度神社に参拝する人々のために建てられた。



◆ 柚井城跡

多度山の南斜面に位置し、現在でも土塁の一部が残っており、標高80mほどの丘に何段かの平地が確認できる。頂上に北半分を土塁に囲まれた方40mほどの主郭がみられる。西城、東城と呼ばれるが東城の遺構は不明。梶田左馬助及び梶田刑部丞を経て西松要人の居城であったが、元龜2年(1571)に織田信長の配下の柴田勝家、氏家ト全に攻略され落城し廃城になったと伝えられている。なお、私有地のため無断での立ち入りは出来ない。



◆ 大黒屋旅の資料館（桑名まちかど博物館）

「先人の足跡を辿りながら文化歴史を伝えよう」と幾代にも渡り、継承されてきた秘蔵の品が並んでいます。

天保時代の銃器や江戸時代の双六盤、古文書、銅鏡に至るまでコレクター垂涎の品が集結。

お庭も拝見できます。



◆ 宮川清めの池

清めの池は、清らかな多度川の伏流水を利用して、宝暦年間にはすでにこの宮川の地に存在し、古くは垢離・掻池（みそぎ池）と称し、多度大社の参拝者は、ここで手を洗い、口をすすぎ身を清めて一の鳥居より神域に入ったと言われています。

現代でも5月の多度大社の祭礼には、この池の水で御旅所行列の途中、各御厨（奉仕地区）の祭馬にそれぞれ水を飼い足を清める習わしがあります。



◆ 多度祭資料館（桑名まちかど博物館）

多度大社の上げ坂のすぐ横にある祭り御殿を兼ねた博物館。約700年前から続けられている多度祭「上げ馬神事」に関する多数の歴史的資料を見ることが可能です。心身ともに癒される森閑とした杜（もり）の空気も堪能。



◆ 多度大社

多度山を神体山にする神社で、社伝によると5世紀後半の雄略天皇の時代に創建されたといわれる古社。北伊勢神宮とも呼ばれ、雨乞いの神、水神、海難除けの神として崇敬されてきた。古代・中世に神宮寺と共に栄えたが、長島一向一揆の際に織田信長に焼かれ、神宮寺は再建されなかった。しかし、多度大社は、慶長年間には伊勢国一の宮とされていたことが棟札から分かる。

社宝に江戸時代中期に本宮裏山の経塚から出土した平安時代の「銅鏡」30面、奈良時代末に満願禪師への神託



によって建てられたといわれる神宮寺の創建の経緯や当時の伽藍の様子などを記した「神宮寺伽藍縁起井資財帳」、昭和4年（1929）、大社東側の道路を拡張した際に出土した平安時代後期の密教仏具「金銅五鈷鈴」がある。

当神社の正式名称は、江戸時代までは「多度大神宮」、明治時代から「多度神社」、平成8年から「多度大社」と変遷している。



◆ 多度観音堂

鷲倉観音とも呼び、●千手観音立像と●十一面観音像を安置している。千手観音は一木造で平安前期の作、十一面観音は寄せ木造りで南北朝時代前後の作とされるが、痛みが激しく何度も修理の手が入っている。2体とも多度神宮寺に関わりのある仏像と考えられている。伊勢西国33観音霊場の33番札所に当たる。



◆ 法雲寺

多度山と号す。浄土真宗大谷派。古代、中世にはこの付近に「宝雲寺」と称する真言宗の多度神宮寺があった。しかし、長島一向一揆の際に織田信長の兵火を受け、多度大社と共に焼失し神宮寺は再建されなかった。しかし、明治時代に地域の人たちの発意によって現在の法雲寺が浄土真宗の寺院として復興された。境内には愛宕神社周辺の愛宕中世墓郡から出土した石仏や五輪塔が集めて祀られている。



◆ 桑名市郷土館

この建物は、昭和8年多度村立多度尋常高等小学校として設立されました。しかし、校舎は老朽化により、昭和57年3月鉄筋コンクリート造りの近代校舎に改築されました。そこで、旧校舎を時代の変遷を物語る代表的な建造物として保存することとなり、一部を移築し、「郷土館」として活用しています。中には二つの展示室があり、地元から寄贈された民俗資料（昔の農耕具や、衣・食・住に使われた道具など）を展示しています。

